【菊池園】 「今だからできた野外食♪」

9月14日、感染対策をとりながら園庭で野外食を行いました。天気にも恵まれシリカファームしすいさんとタマゴサンド専門店タマヤさんがキッチンカーで訪問してくださり、カラフルで可愛いキッチンカーに利用者さんも興味津々のようでした。調理師さん手作りカレーにタマヤさんのからあげと食欲をかきたてられる良い香りが広がり、デザートには夢ミルクソフトクリーム！！カップかコーンのどちらかを選べ、自分たちで受け取り食べるスタイルでイベント感を味わいながら非日常を体験できる機会となりました。コロナ禍で制限される事は多いですが、その時だからこそできる体験になったと思います。コロナ禍になり3年目を迎え、マイナス面だけに目を向けるのではなく工夫やアイデアを出しながら楽しさを見出すことも大切ではないでしょうか。

【銀杏寮】 「第１回ニチレクボール大会」

9月20日、銀杏寮杯ニチレクボール大会を開催しました。8月からクラブ活動で練習を開始。中には練習なしで本番に向かう利用者もいました。3人で1チームを作り利用者6チーム、職員1チームの総当たり戦で行いました。接戦になればなるほど、ボールを投げるたびに一喜一憂する状況で、数ミリで勝敗が決まる試合もありました。職員チームも真剣に取り組み、観戦している利用者や職員も一緒に盛り上がり楽しい大会となりました。利用者から「景品は〇〇が欲しい」「1年に3～4回して欲しい」と提案されるほど好評でした。

【野坂の浦荘】 「コロナに負けない運動会」

新型コロナウイルスの影響で大きく変わった行事に運動会があります。以前は、外部の方やご家族の皆様に参加して頂き盛大に行っていましたが、利用者様と職員のみでの開催に変更になりました。その分「みんなが楽しめる様に」をスローガンに、全員で参加出来るような競技を職員一丸となって考え取り組みました。自立の方や付き添いの必要な方、車椅子の方と色々な利用者様がいる中で、「みんなが楽しめる」と言うのは本当に大変でしたが、終わった後には「楽しかった」や「良かった」との声をたくさんいただきました。また、全職員対抗綱引きも開催し、職員が全力で取り組む姿に、利用者様も一緒に盛り上がりました。規模は小さくなりましたが、満足度は変わらないよう、これからも取り組んでいきたいです。

【天草園】 「花いっぱい運動」

当園では、天草市の「花いっぱい運動」に参加(年２回)しています。天草市から提供された数種類の花の苗を、園裏の県道沿いに面している花壇に利用者さんと一緒に植栽、コロナ禍で色々と制限がある生活の中で、利用者さんのストレス発散にも繋がっています。地域の方からも「天草園さんはいつも綺麗に植えとらすね・・・」とお褒めの言葉を頂き、利用者さんの取り組むモチベーションにも繋がっています。綺麗に咲いている花を見る事で、利用者さんや職員を始め地域の皆様の癒しになり、コロナ禍のストレス解消に少しでも役に立てる事を願って、今後も「花いっぱい運動」に参加して行きたいと思います。

編集後記　2023年　1月号(No.38)

明けましておめでとうございます。菊池園には道沿いに面した中庭に小さな花壇があります。ある日、「いつもきれいな花が咲いてるな～と思って散歩してるの。」と近隣住民の方が声を掛けて下さいました。これを機に短い時間ではありますが世間話をする仲になりました。挨拶は人と人をつなぐキッカケの1つだと再認識した出来事がありました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

熊救協調査研究委員　津田　幸代（菊池園）

編集　熊本県救護施設協議会　調査研究委員　　事務局　〒861-2401　熊本県阿蘇郡西原村大字鳥子3072番地　救護施設　真和館

発行　熊本県救護施設協議会　　TEL (096)-279-1121　FAX(096)-279-1122

熊本県救護施設協議会　　2023年　1月号（No.38）

熊　救　協

http://kumakyukyo.sakura.ne.jp

「包括的暴力防止プログラム（CVPPP）について」

熊本県救護施設協議会会長　藤本和彦

明けましておめでとうございます。今年もどうか宜しくお願い申し上げます。

熊救協の各施設もコロナの感染防止には、大変苦労をしているところであります。ただ、幸いなことに、県や熊本市からは様々な感染対策のための物品や助成金を頂いており、誠に有難く、心から感謝申し上げます。

さて、熊救協は、7つの施設で構成されている小さな団体です。そのために元々会員間の情報交換も密で、一致団結し、助け合う気風の下、様々な事業や研修会を実施しています。

今年の熊救協・九救協合同研修会「こころの病気に関する研修会」は、肥前精神医療センターから講師をお迎えして「包括的な暴力防止プログラム（CVPPP（シーブイトリプルピー））」を実施しました。これは、精神科医療現場から考え出された理念や手技です。

精神領域で起こる暴力は、病状や症状の勢いに主体性を喪失してしまった状況。または、自分に対するコントロールが困難になった状況で起こります。精神障害を抱えた当事者は、幻覚・妄想状態で不安や恐怖にかこまれた世界などでどうにかして助かりたいともがいて孤独な戦いをしているのです。そのため、暴力そのものもケアの対象として取り扱うことが重要となります。

当事者を患者や入所者としてではなく、一人の人として見てケアすること（パーソン・センタード・ケアの考え）により、暴力の軽減を図り、暴力が起こっても敬意ある対応をし、また暴力後のケアを行う、という暴力に対する包括的な理念・プログラムです。当事者に関心を持ち、希望や気持ちを一緒に考え、安心を作り出せるように、支援者一人一人の心が変わり、言葉が変わり、行動が変われば、素晴らしい施設が出来上がるのではなかろうか、と感じております。

ご挨拶

菊池園　施設長　福嶌　秀信

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返れば、新型コロナ感染者も全国的に増減を繰り返すだけで、結局コロナ前の生活に戻るには至りませんでした。相変わらず、会議や研修などはオンラインで開催されるなど、我々は新しい生活様式に慣れてきた反面、人と人との距離は遠くなってしまったように感じています。

そのような中、菊池園は昨年10月に創立50周年を迎え、記念式典の開催を検討しましたが、昨今の社会情勢等を考慮したうえで、残念ながら開催を見送ることとなりました。しかし、これまで菊池園を支えていただいた皆様に少しでも恩返しができたらとの思いから、創立50周年記念誌「時をつむぐ」を発行させていただきました。また、施設内においては入所者と職員のみで、ささやかながら記念レクリエーションを開催し、記念映像鑑賞やくじ引き大会などで大いに盛り上がりました。

この50周年を機会とし、菊池園は救護施設として「生活困窮者の最後のセーフティネット」であるという原点に立ち返り、熊救協の皆様方と共に情報交換しながら入所者支援の質の向上に努めます。さらには、社会福祉法人の役割として、地域課題にも積極的に取り組むなど、社会への貢献活動にも努めて参ります。

最後になりましたが、熊救協の益々の繁栄と皆様方のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

菊池園の設立、…そして50年

菊池園は、熊本県下4番目の救護施設として昭和47年10月11日に事業を開始しました。設立当初は施設周辺には山や畑しかなく、道路も舗装されていませんでした。

設立当初の様子

設立の沿革（抜粋）

【昭和45年】
- 熊本県へ救護施設設置要望書提出
  発起人：川口陸奥男、甲斐隆
- 熊本県へ施設の設置及び補助金交付の陳情

【昭和46年】
- 県共同募金会に対し競輪益金配分を陳情。
  日本自転車振興会へ補助金要望書提出
- 社会福祉法人紫翠会設立許可申請

【昭和47年】
- 社会福祉事業振興会へ資金借入申込。
  認可
- 厚生労働省より社会福祉法人紫翠会設立認可
- 初の理事会開催（6月13日）
- 保護施設設置認可（10月6日）
- 事業開始。入所者43名受入（10月11日）
- 菊池園診療所設置認可（11月7日）
- 菊池園落成式（11月17日）

以前の「熊本県救護施設 合同交歓会」の様子

【歴代理事長】

初代：川口陸奥男
昭和47年8月～令和元年6月
2代目：川口 英敏
令和元年6月～　現在

【歴代施設長】

初代：永田　司
昭和47年11月～平成3年3月
2代目：瀬崎元之
平成3年4月～平成4年3月
3代目：小林貞人
平成4年4月～平成15年3月
4代目：林田　瑛
平成15年4月～平成20年3月
5代目：小西守彦
平成20年4月～平成23年3月
6代目：上野久義
平成23年4月～平成24年3月
7代目：福原孝明
平成24年4月～平成29年3月
8代目：福嶌秀信
平成29年4月～　現在

みんなで参加した運動会

改築後　現在の菊池園

2022年（令和4年）10月14日
菊池園50周年記念レクリエーション

記念すべき50周年ということで、記念式典などを行うことを検討していましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、残念ながら式典開催は見送ることになりました。

代替として、10月14日に、入所者と職員だけで「菊池園50周年記念レクリエーション」を開催し、記念映像上映会や健康体操、くじ引き大会などで盛り上がりました。

各施設トピックス

【しらがね寮】　「鹿児島市へ社会見学に」

令和4年10月26から27日にかけて、1泊2日で鹿児島市に社会見学に行ってきました。利用者17名が参加、職員6名で引率、合計23名の参加でした。

（1日目）鹿児島市内で昼食を済ませ、かごしま水族館「いおワールド」にてイルカショー観覧をはじめ館内の見学、おみやげ品購入、記念撮影などしました。その後、フェリーに乗船し桜島へ。当日宿泊のホテル「国民宿舎レインボー桜島」にチェックイン。「桜島マグマ温泉」を楽しんだり、みやげ物を買ったりジュースを飲んだり、おいしい夕食を食べ、ビンゴゲーム大会で盛り上がり、それぞれ楽しまれました。

（2日目）ホテルをチェックアウトし、フェリーで鹿児島市内へ。市内では、鹿児島市立科学館の見学。ドームシネマ鑑賞や施設内の観覧、記念撮影を済ませ、昼食会場のふるさと物産館へ。帰路では途中、桜島SAで休憩し、おやつタイムを楽しみ、帰寮しました。

参加された利用者のみなさんは、日頃の歩行訓練の成果も見られ、安全に社会見学を楽しまれました。帰寮後、利用者のみなさんが口々に、「楽しかった。」と話されていました。両日とも天気にも恵まれ、桜島の雄大な姿も近くから見ることもできました。記念撮影の1コマから、そういった楽しい様子が伝わるものと思います。こういった機会が持てたことは幸運でしたし、１日も早くコロナ禍が納まる事を祈るばかりです。

【千草寮】　「よ～く見えるばい」

コロナ禍となり2年が過ぎ利用者、職員共にマスク着用や手洗い等は当たり前の日常生活となりました。利用者を外出させるのも難しく、日々変動する感染者数を確認しながら活動を行っているのが現状です。以前より利用者から「メガネが壊れた、見えにくい」等の言葉が聞かれ支援の一環として11月14日にメガネの訪問販売を依頼しました。当日は7名の利用者が視力検査を行い注文、出来上がった眼鏡を着けると「よ一見えるばい」と笑顔で話されました。利用者数名でしたが、希望の支援が出来き、職員もホッとした一日でした。

【真和館】　「猫ちゃんの救護施設」

真和館にお越しになると猫のお出迎えに逢われた方もいらっしゃると思います。現在、真和館には6匹の猫と1匹の犬がいます。多いときには猫は10匹以上おりました。ちょっとした猫の救護施設です。実はこの猫たちは、入所者でもあり職員（セラピスト）でもあります。入所者さんの中には、餌やりをされたり猫用のベッドを作られている方もおられ、猫がいるからという理由で入所を決められた方もおられます。特に喜怒哀楽を上手く伝えられない方は、猫に語りかけることでバランスを保たれている場合もあります。猫は隣にちょこんといるだけで、皆さんに落ち着きと笑顔を与える素晴らしいセラピストになっています。また、犬の散歩は入所者さんの日課になっています。犬のお世話をすることで、体力作りや情緒が豊かになる姿も見られています。真和館に来館の折には、是非セラピストたちに声をかけてください。